

# 民主島根

2024年  
**3.31**  
第1445号

発行所 松江市袖師町3-6 TEL 0852-24-2444  
日本共産党島根県委員会 FAX 0852-24-6369

## 隠岐キャラバン 町当局や各団体と懇談 離島の困難軽減を

### 大平、村穂、大國 衆議院議員、副委員長、議員ら



町民の声に耳を傾ける（正面左から）大平、村穂、大國の各氏（隠岐の島町）



池田町長（左列2人目）と懇談する大平氏ら（隠岐の島町）

日本共産党の大平よしお元衆議院議員・衆院中国比例予定候補、村穂江利子党副委員長、大國陽介議員は18日、隠岐の島町を訪れ、町当局や森林組合、JAしまね隠岐地区本部と移住・定住対策や産業振興策について意見交換しました。党おき支部のメンバーが同行しました。

池田高世偉町長は、輸送費がかかるため物価が本土より2割高いなど、離島の事情を説明しました。

大平氏は、夜には党おき支部主催の集いに参加し「希望を持てる政治の実現へ、党を強く大きくしてほしい」と訴えました。

一行は、19日には海士町と西ノ島町を訪れ、両町でも街頭宣伝。「衆院島根1区補選、来たる解散・総選挙で自民党に厳しい審

判を下そう」と呼びかけました。

海士町で懇談した吉元操副町長は「医療や福祉が課題。人材確保に苦勞している。離島の現状を踏ま

え、法律や制度をつくってほしい」と述べ、西ノ島町の坂栄一秀町長も、介護分野などでの人手不足対策に公的支援が必要だと語りました。

大平氏は「まともに税金を納めず、裏金づくりの議員に国会の二つの仕事である予算を組み、法律をつくる資格があるのか」と批判。原発再稼働問題や賃上げ・消費税減税、J R木次

### 衆院選、雲南市議選勝利を

#### 党雲南市委 大平、村穂氏を迎え決起集会

日本共産党雲南市委員会は24日、大平よしおのぶ衆院中国比例予定候補を迎え、雲南市大東町で衆院島根1区補選、次期総選挙と今秋の同市議選勝利に向けた決起集会を開催し、37人が参加しました。

大平氏は「まともに税金を納めず、裏金づくりの議員に国会の二つの仕事である予算を組み、法律をつくる資格があるのか」と批判。原発再稼働問題や賃上げ・消費税減税、J R木次

### 島根県医労連は14日、県議会5党派と意見交換

#### 人員不足の窮状を訴え

島根県医労連は14日、県議会5党派8人の県議と懇談し、人員不足で患者や利用者に寄り添ったケアができない現場の窮状を訴えました。

日本共産党県議団の尾村利成、大國陽介の両県議、自民党議員連盟の池田一、田中明美の両県議、自民党ネクスト島根の嘉本祐一県議、民主県民クラブの白石恵子、岩田浩岳の両県議、公明党県議団の吉野和彦県議が参加しました。

森山篤士委員長ら13人は医療・介護現場を抱えている問題などを報告。「半数以上の職員が月10回以上夜勤し疲弊している」「十分な休みも取れないため、医療・介護現場から離れてしまう」などと訴え、看護師・介護職員の配置基準の抜本的改善や大幅増員などを要望しました。要望を受けた県議は「国に要望し続けているが進んでいない。みなさんと一緒に島根で何ができるか考えていきたい」と心じました。

衆院島根1区補選（4月16日告示・28日投票）について、日本共産党県委員会は18日に党事務所記者会見し、立憲民主党の元衆院議員の亀井亜紀子氏（58）を自主的に支援すると発表しました。

上代善雄県委員長は今回の補欠選挙について、裏金問題や統一協会との深い関わりなど自民党の腐敗政治に対する国民の怒りが広がっているとの厳しい審判が必

### 立民・亀井氏の勝利で自民に審判を

衆院島根1区補選 自主的支援 党島根県委が発表

要だと強調。「自民の議席を減らすために野党候補を一本化し、亀井氏の勝利のために全力を挙げる」と述べ、村穂江利子氏（55）は党公認は擁立しないと説明しました。

尾村利成副委員長は政策的な一致についてはエネルギー問題等を含め市民連合と立憲民主党を含む野党間で合意があると説明。「政局に大きな影響を与える補選で勝利し解散・総選挙に追い込む」と訴えました。

### 鼓動

2015年8月から執筆担当に加わった約650字の本欄「鼓動」。情報収集や社会の流れに鈍感だった私を悩ませたのは、何よりもテーマの設定だった。そのため、各種の新聞やネットニュースなどを張り巡らせ一つひとつの事象に興味と関心を持つようにしていた▼正確に数えてはいないが、これまで70本程度執筆陣に加わることが決まった時、コラムを書く練習をした。

この間、読者の方から苦言をいただくこともあったが、時に寄せられる高評価（SNSに例えると「いいね」）が執筆の励みになったことは言うまでもない▼ただ、そもそも自分には「執着」というものがない。こう書くか、賛否はあるのだろうか、例えば何かを失うことになっても、そのぶん違う何かを得られるかもしれない、まったく新しい何かがあるかもしれない。新しいことにチャレンジしたとして、もしそれが自分に合わないと思ったらやめればいいし、その時々選択は、自分次第で無限にあると思っている▼こういう考えを前向きといっているのかどうかはわからないが、「執着」がないぶん、何につけても切り替えが早い性格、性分なのだろう▼責任者とも相談し、本欄「鼓動」は今号をもって終了する。執筆を通じて多少なりとも文章力の向上に繋がったのではないかと回想する。4月に発行する次号からは本欄のスペースを活用して写真等もより効果的に使いたく、この経験も生かし、より深く、より多くのニュースを伝えられるように努めたい。

（遠）